

(2) こどもを取り巻く現状と課題

①子どもを取り巻く現状

平成17年4月から各区にこども総合支援担当が設置された。

設置目的

「地域における様々な問題(育児不安、虐待等)、多様化する保育ニーズ(長時間保育、一時保育等のニーズに応じた保育機能の多様化)、学校教育における諸問題(不登校、いじめなど)に的確に対応するために区役所を地域の子育ての総合的拠点として整備する

業務内容

子どもに関する情報収集・発信・提供

子どもに関係する機関の連携・調整体制のシステム整備

地域の子どもに関する情報や区民ニーズの把握・分析に基づく施策の企画立案 等

また、「新総合計画」や「次世代育成行動計画」の具体化を図る

こどもの範囲

0歳から概ね18歳までを対象とする

まず、地域にあった子育て支援策の具体化に向けて、

地域の子育てニーズを把握・分析し、区役所を中心とした子育ての仲間づくりや育児相談、育児講座、情報提供などの機能強化をすすめるために、こども関係機関を訪問しての状況把握や、区役所内の関係課・係、関係機関・団体会議を行い現状と課題の把握を行った。

(1) 子どもを取り巻く現状

麻生区は開発に伴い形成されてきた町で、多摩丘陵の自然に恵まれているが、山坂も多く、子育て中の親子の移動も車が多いといわれる。

今後も人口は増加の見通しで、新たに住み始める区民の方が多いと考えられる。

住民の方は子育てサークル等自主的な活動を自ら始められ、活動の場所を求め、運営をしている。

パソコンの普及率も高く、情報の交換はネットや携帯も利用し行われている。

また、一般的に最近の子育て状況として、

子育てを支える、さまざまな生活体験や育児の経験等を積み重ねにくい状況があること、

子育てを助けてくれるつながりが地域の中で作りにくいこと、

家族の中でも子育てに協力してくれる人が少ないこと

等から子育てをしていく力は総体的に低下している現状があるのではという状況がうかがわれる。

川崎市の7区は地理的なこともあり、区によって特性があるといわれている。統計からみた麻生区の親子の状況を報告する。

① 出生数

区名	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年
川崎区	1, 8 9 0 人	1, 8 0 6 人	1, 8 4 7 人
幸区	1, 4 1 8 人	1, 3 2 5 人	1, 4 0 8 人
中原区	2, 3 2 8 人	2, 3 1 6 人	2, 3 0 2 人
高津区	2, 2 7 5 人	2, 2 1 1 人	2, 3 0 6 人
宮前区	2, 4 3 5 人	2, 2 8 0 人	2, 3 6 1 人
多摩区	2, 1 3 9 人	2, 1 4 3 人	2, 0 4 2 人
麻生区	1, 3 7 6 人	1, 2 9 8 人	1, 2 7 6 人
全市	1 3, 8 6 1 人	1 3, 3 7 9 人	1 3, 5 4 2 人
麻生の人口	1 4 6, 5 8 9 人	1 4 7, 9 9 3 人	1 4 9, 7 9 2 人

麻生区の分区時の、昭和 5 8 年人口 1 0 1, 9 5 7 人 出生数 1, 4 1 1 人

人口は、急増しているが、出生数は、横ばいから微減傾向にある。分区当時と比べると 1 6 年は、人口は約 4 7, 8 0 0 人多いが、出生数は 1 3 5 人少なく、少子化の進行が伺われる。

② 合計特殊出生率

区名	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年
川崎区	1. 3 9	1. 3 1	1. 3 4
幸区	1. 3 6	1. 2 7	1. 3 0
中原区	1. 1 8	1. 1 8	1. 1 6
高津区	1. 2 8	1. 2 4	1. 2 7
宮前区	1. 3 3	1. 2 7	1. 3 2
多摩区	1. 2 4	1. 2 1	1. 2 1
麻生区	1. 1 6	1. 1 0	1. 0 7
全市	1. 2 7	1. 2 3	1. 2 4

川崎市の平均は 1. 2 4 で全国平均の 1. 2 9 を下回り、区別でも麻生区は市内で最も低い状況である。

③ 平成 1 6 年に出産した者の年齢割合

区名	1 0 ～ 2 0 歳代	3 0 歳代	4 0 歳代
川崎区	5 1. 2 %	4 6. 9 %	1. 9 %
幸区	4 2. 2 %	5 6. 0 %	1. 8 %
中原区	3 5. 0 %	6 3. 5 %	1. 5 %
高津区	3 6. 7 %	6 1. 4 %	1. 9 %
宮前区	3 7. 7 %	6 0. 3 %	2. 0 %
多摩区	3 7. 5 %	6 0. 2 %	2. 3 %
麻生区	3 2. 2 %	6 5. 6 %	2. 2 %
全市	3 8. 8 %	5 9. 3 %	1. 9 %

晩婚化や、出産年齢が上がっていることが少子化の原因の一つといわれているが、麻生区は他区と比べて２０歳代の出産は最も低く、３０歳代で出産する割合が最も高く川崎区と比べると１８％近くの差がある。

④ 核家族の状況（平成１２年国政調査から）

区名	総世帯数	核家族世帯数	核家族の割合
川崎区	78,737	43,482	55.2%
幸区	54,850	33,111	60.3%
中原区	86,568	43,947	50.7%
高津区	75,992	43,399	57.1%
宮前区	74,317	51,745	69.6%
多摩区	85,786	44,993	52.4%
麻生区	54,427	36,031	66.2%
全市	510,677	296,708	58.1%

麻生区は、核家族の割合が宮前区について高く、最も低い中原区より１５％も高い状況がある。

⑤ 女性の有職率

区名	母子健康手帳交付時	３歳児
川崎区	57.8%	30.9%
幸区	55.6%	28.2%
中原区	58.4%	24.4%
高津区	53.2%	22.0%
宮前区	38.0%	24.8%
多摩区	54.5%	21.4%
麻生区	31.5%	18.2%
全市	50.8%	23.9%

母子健康手帳交付時、３歳児とも母親の有職率は市内で最も低く、家庭で子育てをしている状況がうかがえる。

⑥ 区内保育園・幼稚園の通園状況

人口は 17 年 3 月 31 日 保育園児数は 4 月 1 日 幼稚園児数は 5 月 1 日

	0～2歳 人口	3～5歳 人口	0～5歳 人口計	保育園児 数	0～5歳 の通園率	幼稚園児 数	3～5歳 の通園率
麻生区	3,950 人	4,278 人	8,228 人	1,027 人	12.5%	2,620 人	61.2%
全市	38,675 人	37,037 人	75,712 人	11,676 人	15.4%	22,821 人	61.6%

麻生区で幼稚園に通う子どもの割合は、６１％と全市平均と同様であるが、保育園については、１２．５％と全市の１５．４％と比べやや低い傾向にある。

⑦ 区内公立小・中学校への通学状況

人口は17年3月31日小中学生数は5月1日

	6～11 歳人口	小学生数	通学率	12～14 歳人口	中学生数	通学率
麻生区	8,494 人	8,474 人	99.7%	4,076 人	3,031 人	74.3%
全市	68,969 人	66,420 人	96.3%	32,030 人	24,947 人	77.1%

小学生の通学率は全市よりも高い。中学生は7割が公立で全市平均より麻生区は少ない。

⑧ 地域療育センターにおける相談状況

区名	平成13年度	平成14年度	平成15年度
川崎区	381人	369人	458人
幸区	270人	326人	284人
中原区	427人	448人	509人
高津区	432人	551人	458人
宮前区	489人	509人	509人
多摩区	518人	556人	615人
麻生区	389人	427人	500人
全市	2,906人	3,186人	3,333人

麻生区は、15年度の相談数の増加が際立っている。

⑨ 児童虐待の相談通告件数

区名	平成15年度	平成16年度
川崎区	84件	78件
幸区	50件	48件
中原区	59件	57件
高津区	57件	82件
宮前区	58件	84件
多摩区	52件	64件
麻生区	21件	34件
全市	380件	448件

全市は、対15年で118%の増加だが、麻生区は161%と増加傾向がいちじるしい。

⑩ 虐待の種類

	平成15年度	平成16年度
身体的虐待	160件	178件
ネグレクト	137件	163件
性的虐待	9件	9件
心理的虐待	74件	98件
計	380件	448件

身体的虐待が40%、ネグレクトが36%を占めている。

⑪ 長期欠席児童の状況

区名	小学校	中学校	計
川崎区	172人	287人	459人
幸区	78人	166人	244人
中原区	71人	173人	244人
高津区	115人	200人	315人
宮前区	116人	234人	350人
多摩区	72人	155人	227人
麻生区	63人	110人	173人
全市	687人	1,325人	2,012人

全区とも中学生になると長期欠席児童が急増している。

⑫ 長期欠席の理由

	小学校	中学校	計
病気	351人	184人	535人
経済的理由	0人	3人	3人
不登校	187人	1,081人	1,268人
その他	149人	57人	206人
計	687人	1,325人	2,012人

全市の長期欠席の理由は、小学校では、病気による長期欠席が、中学校は不登校が最も多い状況である。